

学校点描 +

プラス

丹生徒指導主事を中心に、女子用のスラックスを希望できるように業者と打合せを重ねて、先日見本が届きました。

《K中学校》

NO.5

R4. 6. 16

担当：校長

6月3日（金）定期テストが終了した後、町の人権擁護委員のSさん、Sさん、Iさん、事務局の方々と花の苗植えを全校で行いました。強い雨が降り出したので、ピロティの中での作業となりました。

5日（日）ウイースポーツクラブ新庄にて、地区中総体水泳競技が行われ、女子50m自由形に出場したTNさんが3位となりました。

9日（木）校内に掲示している絵画の1部に落書きをしたり、ポスターの顔の写真の部分に傷をつけた跡が生徒の訴えからわかったため、緊急の全校集会を行いました。結局、誰が行ったのかわかりませんでした。先週は、修学旅行中の新潟市の中学生が十日町市にある現代美術館に展示していた大地の芸術祭の作品2点を壊したことが話題になっていました。集会の後に全員から書いてもらったアンケートを全員分読みました。9割以上の生徒が「金が悪くなったとみられるのが嫌だ」「わずかな人の行為で、楽しくない学校になるのは腹が立つ」などの、怒りに似た感想を書いていました。この怒りのような思いこそが、健全な学校の雰囲気づくりに大切なのです。

へいわな “ものさし”

10日（金）の6時間目。校舎に描かれた落書きを、ラッカーで消しながら、音楽室の1年生の授業をのぞきました。美しいまでとはいきませんが、とっても元気な歌声です。スクールカウンセラーのMさんも授業をのぞいていました。曲は『ふるさとの虹』でした。全員で歌い終わったあと、思わずみんなで拍手をしていました。50分間の授業の中で、心をひとつに歌えたことへの喜びを味わえている姿をみて、とっても嬉しくなりました。Mさんは、「なんだか感動して涙が出そうです。」と、一緒に拍手をしながらつぶやいています。

本日、校長室前の廊下に、絵本を置きました。

「へいわとせんそう」という詩人である谷川俊太郎さんの絵本を置きました。

何気なく手にとって眺めて欲しいなあと思って置きました。

とっても単純な内容の絵本です。へいわなときとせんそうのときを、ずっと対比して、ページが進みます。

「へいわのボク」のページは、いつも通り。いつもと同じに立っている。

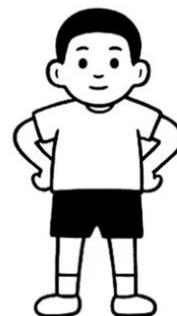
「せんそうのボク」は座り込んでしまっている。

「へいわのワタシ」は勉強をしている。これもいつも通り。

「せんそうのワタシ」は何もしてない。

「へいわのチチ」はボクと遊んでくれて、「せんそうのチチ」は完全武装をして一人で闘ってい

へいわのボク



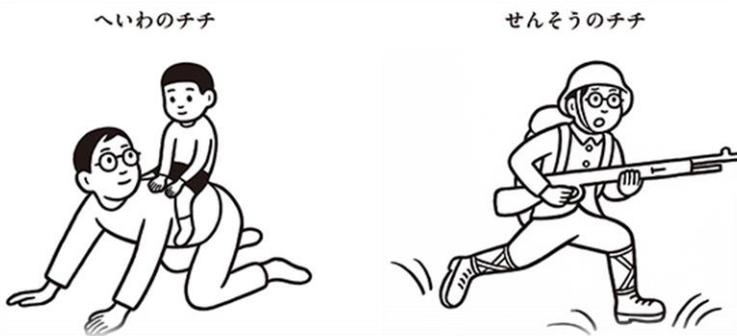
せんそうのボク



る。「へいわのハハ」は絵本を読んでもくれるけど、「せんそうのハハ」は……。食卓を囲む「へいわのかぞく」、食卓には誰もいない「せんそうのかぞく」。手に持っているモノだって、木や海や街だって、明らかに全然違う。

シンプルだけど、これ以上ないくらいわかりやすい谷川さんの「心のことば」が伝わります。この絵本のどのページを見ても、へいわとあそいの世界の対比があります。

今週末は地区総体です。地区総体というスポーツでのたたかいは、とてもへいわなたたかいです。地区総体とせんそうを比較するなんて、今年の1月までは考えたこともありませんでした。



せんそうは、私たちの周りにもあるように思います。人と人が争いごとを生む、それもせんそうとおなじ背景がありそうです。その背景とは、人が人を許そうとする、寛容（かんよう）さの欠如です。だれもが、自分なりの価値基準の“ものさし”を持っています。その自分だけの“ものさし”でしか考えられなくなったときに、別の“ものさし”を持つ人への寛容さの欠如が生まれ、あそいごとが生まれるのだと思います。

音楽の授業。1年A組の学級全員で精一杯歌ったあの授業。思わずみんなで拍手が出た授業。「上手、下手」「高い声、低い声」、いろんな“ものさし”の違いはあるけれど、全員が「ここを重ねて一生懸命うたった」と思えたからの拍手だったのでしょ。そこにあるのは自分だけの“ものさし”を超えて、“学級のものさし”を全員が感じたからなのだと思います。

『へいわとせんそう』の絵本で、谷川さんは最後のページに、『みかたの〇〇ちゃんと、てきの〇〇ちゃん』を用意しています。

それを見ると、きっと自分だけの“ものさし”を超えて、世界中の“ものさし”に変わった自分のところと出逢えます。

ぜひ、絵本を手にとって見てください。平和なものさしを感じてください。

『へいわとせんそう』著 谷川俊太郎 イラスト Noritake (ブロンズ新社 2019/3/13)

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。